

# 神緑会ニュースレター

第1巻 第4号

発行日 2010年3月15日



目次	ページ
神緑会 臨時総会報告	2, 3
新春学術講演会・山中先生ラスカー賞受賞記念講演	4, 5
懇親会の風景	6
新任教授紹介・栄誉者	7
バイオサイエンス研究会・若手研究者交流会	8
第4回ホームカミングデイ開催	9
学生海外派遣報告(ハワイ大学)	10, 11
大倉山祭2009報告	12
ヨット部西医体優勝のOBからのお祝い	13
西医体成績	14
医学部クラブ紹介(ラグビー部)	15
医学部クラブ紹介(ESS)・編集後記	16

# 神緑会臨時総会、学術講演会、懇親会を 過去例のない盛り上がりで挙行

(2010年2月13日)

準備段階でのハガキでの出席通知は、例年の2～3倍程度の反応で、特に懇親会への参加人数が読めない中で、総会を開始しました。39名の物故者への黙祷の後、総会議事を滞りなく進めました。講演会の開始時間は、受付の長い列のため、開始時間を遅らせてスタートしました。立ち見の出る盛況で、内容は解りやすく、更に、山中教授からは「母校に帰って来た気分で落ち着く」とリラックスムードでした。予定通りに進行し、理事長から山中教授にお礼を参加者の面前でお渡しし、拍手喝采の内に講演会を終了しました。会場を隣のポートピアホテルに移しての懇親会は、700名が参加可能とのホテルの見通しでしたが、混雑の内に、来賓の井戸敏三兵庫県知事の挨拶、坂井昌武先生（27年卒）の発声で乾杯の後、懇親会が行われました。教授就任、人事異動者と荣誉者の紹介と挨拶を滞りなく進めました。この後に、参加者の多くが山中教授との写真撮りの希望が多く、山中教授は壇上に設けられたセットから動くことが出来ない状態でした。卒業年順に撮影し、最後は100名以上参加していた主に神戸大学医学部医学科の学生との楽しいツーショットとなりました。



神緑会理事長 前田盛

## 1. 総会の報告、重要事項のみ

- 1) 22年度の事業（次頁）
- 2) 定款内容（案）や一般法人への移行手続きについて

平成20年12月より、公益法人制度の改革により移行法人に整理されました。社団法人としては5年以内に、一般か公益かに方向を定めて手続きを開始する必要があります。同窓会を母体とした活動は、万人を対象とした活動が行いにくく、約1年前の総会で一般法人に移行する事で承認されました。行政書士百合岡事務所 の指導下 に 手続きのための検討を行っています。総会の成立要件が厳しくなるので（委任状は有効ですが、その枚数や承認の取り方など）代議員制の導入止むなしの方向でしたが、今回の措置で、公益法人ではなくなり、かつ、各会員の権限（直接選挙権）が薄まるのは問題ありとして、当初の案は、取りやめました。現行の定款を出来るだけ守ることにしました。

変更（改正点）：正会員を、医学部医学科（前身校含む）卒業に加えて、他大学医学部（医科大学を含む）卒でこの法人の目的に賛同する者としました。他大学卒の大学院修了者の参加が望まれます。特別会員、名誉会員に加えて、現行定款第6条第1号ハを賛助会員としました。

社員総会：総ての正会員で構成する。これまでは役員選挙の投票権と被選挙権は理事と評議員（支部及びクラス代表）に限られていましたが、これからは総会での直接投票となります。

役員、理事 6名以上15名以内（委任状は無効）

監事 2名以上3名以内 会計の監査中心の現行から変更になります。コンプライアンスなどを含む、運営のあり方などにご意見もお願いします、お目付役になります。

他に、会員規則、運営規則を理事会・評議員会で検討しています。

なお、審査に通ることを優先しますので細部については百合岡事務所の指導に従います。

- 3) 公益目的支出計画（案）

一般法人への移行に際しては、基本財産の約一億円を一定の期間で費消することが求められます。これまでの神緑会の事業の中で公益事業に当たるものを中心に事業展開し、一方で毎年の会費を残すことで、会計的に将来に備えることを考えてきました。

公益目的の支出額＝実施事業にかかる事業費＋管理費のうち公益事業への配賦額－実施事業に係る収益の額＋特定寄附の額

会誌発行事業が会員主体に配布されており、公益事業として認められない可能性があるとの判断を百合岡事務所からいただきました（要再協議）。管理費のうち、事業費の割合を基に「公益：共益＝7：3」とした、これらの検討から、8～10年で費消するのが望ましいと判断しました。これまでの5年での費消を変更します。

## 平成22年度 社団法人神緑会 事業計画書

### 1) 地域における疾病並びに医療等に関する研究調査(定款第5条第1号該当事業) (予算総額 1,500,000円)

- |     |   |             |
|-----|---|-------------|
| (1) | 脳卒中後のリハビリテーションに関する総合的研究<br>研究調査班代表者: 神戸健康ライフプラザ・健康科学センター長 岡田 安弘<br>研究協力者: 小畑好伸(幸生リハビリテーション病院院長)、<br>栗原英治(順心病院院長)、島田真一(兵庫医科大学)                 | 予算 300,000円 |
| (2) | 本邦における日常的マスクギャザリング医療体制の研究<br>研究調査班代表者: 兵庫医科大学救命救急センター副部長 久保山 一敏<br>研究協力者: 橋本篤徳、山田太平(兵庫医科大学救急救命センター)   | 予算 400,000円 |
| (3) | 我国および周辺アジア諸国におけるヒトバベシア症発生状況調査と地域特有の<br>バベシア原虫の性状の比較解析<br>研究調査班代表者: 兵庫医療大学薬学部微生物学分野 斎藤 あつ子<br>研究協力機関: 神戸大学大学院医学系研究科微生物学分野、県立淡路病院、<br>洲本伊月病院、ほか | 予算 400,000円 |
| (4) | 兵庫県におけるE型肝炎感染実態調査<br>研究調査班代表者: 市立加西病院診療部長兼消化器科部長 北嶋 直人<br>研究協力者: 三代俊治(東芝病院、厚生労働省E型肝炎研究班班長)、<br>東 健、瀬尾 靖(神戸大学医学部消化器内科)                         | 予算 400,000円 |

### 2) 学術講演会等の開催(定款第5条第2号該当事業) (予算総額 1,500,000円)

### 3) 教育研究・学術交流援助(定款第5条第3号該当事業) (予算総額 1,800,000円)

- |     |   |               |
|-----|---|---------------|
| (1) | 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の医学に関する学術交流基準又は教育・研究活動基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、原則として1件につき500,000円を限度として援助を行う。 | 予算 1,400,000円 |
| (2) | 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の海外における学会発表基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、原則として1件につき100,000円を限度として援助を行う。            | 予算 100,000円   |
| (3) | 本会学術委員会の答申に基づき、援助対象となる女性の研究者の中から、別に定める学術奨励賞規定により1名の選考を行い、該当者に対して300,000円を授与する。                | 予算 300,000円   |

### 4) 会誌の発行(定款第5条第4号項該当事業) (予算総額 2,700,000円)

内容については学術誌編集委員会で検討し、充実したものにする。

### 5) 医学部教員の海外学習に対する援助(定款第5条第5号該当事業) (予算総額 500,000円)

### 6) 医学部学生の海外交流学習に対する援助(定款第5条第5号該当事業) (予算総額 1,000,000円)

**平成22年度事業費総額**

**合計 9,000,000 円**

## 新春学術講演会

### 山中伸弥教授・ラスカー賞受賞記念講演

2月13日（土）、神戸国際会議場にて、京都大学物質—細胞総合システム拠点 iPS細胞研究センター 山中伸弥教授（神戸大学医学部昭和62年卒）によるラスカー賞受賞講演会が開催されました。前田盛神緑会理事長の挨拶に引き続き、高井義美医学研究科長より祝辞が述べられました。その後、山中教授から「iPS細胞の可能性と課題」というテーマで人工多能性（induced Pluripotent Stem, iPS）細胞の開発と応用に関するご講演をいただきました。最後に杉村和朗附属病院長より閉会の挨拶がありました。

本講演会は、社団法人神緑会の主催、および神戸大学大学院医学研究科GCOEプログラム「次世代シグナル伝達医学の教育研究国際拠点」、「統合的膜生物学の国際教育研究拠点」の共催で行われたものであり、神戸大学医学部卒業生、学内の若手研究者、学部学生を含め、約700名を超える出席を仰ぎ、盛会のうちに終了しました。

引き続き懇親会では、400名の参加を頂き、井戸兵庫県知事、教授就任、栄誉者の挨拶が行われ、その後、山中教授との写真撮影が行われました。



講演中の山中教授



講演前の江本、高井、山中、谷口各氏と取り囲む姫路獨協大学学生



講演前の会場風景

## 御講演内容 ～山中教授抄録より～

体細胞から直接に樹立される人工多能性幹（induced Pluripotent Stem, iPS）細胞は、胚性幹（ES）細胞に近似した特性を持つ。私達は萌芽期にあるiPS細胞を、細胞移植治療、病態解明、有効で安全な薬剤の開発などへ応用可能な水準に到達させることを目標としている。

2006年、iPS細胞はマウスで初めて樹立された。多能性誘導因子の多くはES細胞の多能性維持因子と同じであると考え、多能性誘導を薬剤耐性獲得で評価するアッセイ系を構築し、24の候補因子を線維芽細胞にレトロウイルスで導入していった。その結果、Oct3/4、Sox2、c-Myc、Klf-4が多能性誘導因子の実態であることを明らかにした。その後、選択指標の変更でマウスiPS細胞の多能性を向上させ、生殖系列への分化能を実証した。さらには、レトロウイルスによる遺伝子導入効率を高める工夫を行い、ヒト線維芽細胞からのiPS細胞樹立を達成した。

一方で、iPS細胞に由来するキメラマウスでc-Mycレトロウイルスのゲノム挿入に起因すると考えられる腫瘍形成が認められた。c-Mycを除いた3因子でiPS細胞を樹立するとともに、間葉系の線維芽細胞以外に、上皮系の肝細胞や胃上皮細胞から4因子を用いてマウスiPS細胞を樹立し、腫瘍原性を比較した。その結果、線維芽細胞の場合、4因子よりも3因子誘導のiPS細胞が、また、線維芽細胞よりも肝細胞や胃上皮細胞由来のiPS細胞の方が腫瘍原性は低かった。腫瘍形成は将来の臨床応用において大きな課題となる。そのため、ウイルスベクターに代わりプラスミドで樹立したところ、サザンブロット解析では外来遺伝子のゲノム挿入が認められないマウスiPS細胞が得られた。

臨床応用に向けたiPS細胞の研究進捗について講演する。



講演中の山中教授  
スライドは研究着想に至る基本概念

# 懇親会の風景いろいろ



井戸兵庫県知事と懇親会



井戸知事挨拶



同級生と懇談



懇親会開始直後



山中教授を取り囲む学生達



山中教授と医学部・神緑会役員と60～62年卒

## 新任教授紹介



神戸大学大学院医学研究科総合臨床教育・育成学 特命教授  
 神戸大学都市安全研究C医療リスクマネジメント研究分野 教授  
 神戸大学大学院医学研究科地域医療ネットワーク学 特命教授  
 神戸大学大学院医学研究科ゲノム生理学 教授  
 神戸大学大学院医学研究科へき地医療学 特命教授  
 神戸大学大学院医学研究科産科婦人科学 教授  
 神戸大学大学院医学研究科総合臨床教育・育成学 特命教授  
 同志社女子大学薬学部医療薬学科 教授  
 神戸大学大学院医学研究科総合臨床教育・育成学 特命教授  
 兵庫医療大学薬学部微生物学 教授  
 兵庫医療大学薬学部薬物治療学 教授  
 神戸大学大学院医学研究科分子病理診断学 特命教授  
 神戸大学大学院医学研究科総合臨床教育・育成学 特命教授  
 神戸大学大学院医学研究科地域医療ネットワーク学 特命教授  
 姫路獨協大学薬学部 教授  
 姫路獨協大学医療保健学部 教授

荒川 創一 (特別会員)  
 岩田健太郎 (特別会員)  
 久津見 弘 (特別会員)  
 菅澤 薫 (特別会員)  
 橋本 正良 (特別会員)  
 山田 秀人 (特別会員)  
 苅田 典生 (55)  
 高橋 玲 (55)  
 山崎 峰夫 (56)  
 斎藤 あつ子 (57)  
 辻野 健 (59)  
 北澤 莊平 (60)  
 川合 宏哉 (61)  
 味木 徹夫 (63)  
 谷口 泰造 (63)  
 酒井 良忠 (08)

## 栄誉者及び人事異動



兵庫県 県勢高揚功労賞  
 兵庫県科学賞  
 旭日双光章  
 旭日双光章  
 瑞宝小綬章  
 兵庫県 防災・消防功労賞  
 井植文化賞(科学技術部門)  
 県立がんセンター 院長  
 兵庫県理事・へき地医療支援担当  
 県立姫路循環器病センター 院長  
 県立柏原病院 院長  
 ラスカ一賞

井村 裕夫 (名誉会員)  
 片岡 徹 (特別会員)  
 松川 善彌 (30)  
 松永 剛典 (32)  
 吉田 浩 (33)  
 石井 昇 (47)  
 塩澤 俊一 (50)  
 西村隆一郎 (48)  
 細川 裕平 (50)  
 梶谷 定志 (52)  
 大西 祥男 (58)  
 山中 伸弥 (62)

(敬称略)

## 第2回 神戸大学バイオサイエンス研究会・若手研究者交流会を開催しました。

**主催：神戸大学バイオサイエンス研究会・若手研究者交流会**

(世話人：先端融合研究環・斎藤尚亮、工学研究科・大谷亨、理学研究科・白井康仁、医学部保健学科・伊藤光宏、農学研究科・中屋敷均、医学研究科・吉田優)

**共催：神戸大学GCOEプログラム「次世代シグナル伝達医学の教育研究国際拠点」  
社団法人 神緑会**

2010年2月2日(火)に第2回神戸大学バイオサイエンス研究会・若手研究者交流会が行われました。本会は、神戸大学大学院の医学研究科、保健学研究科、工学研究科、農学研究科、理学研究科、バイオシグナルセンターの若手研究者らの交流を目的としたものです。本交流会は、神戸大学バイオサイエンス研究会・若手研究者交流会が主催、また、神戸大学グローバルCOEプログラムならびに社団法人 神緑会の共催で行われたものです。4題の特別講演ならびに33題のショートプレゼンテーションならびにポスター発表が行われ、学内の若手研究者、学部学生を始め、約100名を超える出席があり、盛会のうちに終了しました。

### プログラム

はじめに

16:00~16:05

開会の挨拶 先端融合研究環・斎藤尚亮

16:05~16:10

「神戸大学バイオサイエンス研究会・若手研究者交流会について」

医学研究科・吉田 優



**第1部 (16:10-17:30)**

16:10~16:30

特別講演1「リアルな手術トレーニング用脳モデルの開発」

工学研究科応用化学専攻・小寺 賢先生

16:30~16:50

特別講演2「哺乳類の体内時計システム：中枢時計と末梢時計」

農学研究科環境生物学・坂本克彦先生

16:50~17:10

特別講演3「自己臨界点説による膠原病の発症」

保健学研究科病態解析学・積山 賢先生

17:10~17:30

特別講演4「メタボロミクスの医学研究への応用」

医学部質量分析総合センター・篠原正和先生



(理研、RCAI, 河本宏先生 画)

**第2部 (17:40-19:30)**

17:40~18:30

ポスターショートプレゼンテーション 各1分

ポスター検討会

奇数番号：18:30~19:00

偶数番号：19:00~19:30

19:30 閉会の挨拶 保健学研究科・伊藤光宏

# 第4回ホームカミングデイ を開催しました。

2009年10月31日(土)

## ごあいさつ

研究科長 高井 義美

第4回神戸大学ホームカミングデイを迎え、本年も医学部医学科の先輩方・在校生の皆様にお集まり頂く機会を得ました。すでにご存知の方もおられると思いますが、昨年11月7日に共同研究館（動物実験施設）と寄附建物の竣工記念式典を行いました。これによりトランジェニック動物を用いた最先端の研究が益々発展することが期待できます。また、基礎学舎・北棟の耐震工事も本年2月末に無事終わりました。これも偏に神戸大学医学部先輩のご支援の賜物です。厚く御礼申し上げます。

平成卒業のクラス会代表に対して多くの依頼をさせていただきました。基本的には、ホームカミングデイは、当時の野上学長の方針で、昭和卒業生に対して10年刻みで重点学年を設け出来るだけ多くの卒業生との接点を持つとするものでした。神緑会は、2年ごとの名簿を発刊するなどの他の学部の同窓会とは異なる密度での活動を行ってきました。名簿の白紙が多いのが平成卒業であり、クラス代表の協力を何とかしたいとの方針を持っていました。アンケートの実施など工夫しましたが難しい面もあり、今後改めて、クラス代表の交代などの協力を求める予定です。

社団法人 神緑会理事長 前田 盛

【受付】13:30～14:30(医学部神緑会館)

■ キャンパスツアー (13:30～14:30)

■ 学部長挨拶

14:30～14:40(神緑会館多目的ホール)

■ 講演

14:40～15:20(神緑会館多目的ホール)

- 座長：腎泌尿器科学分野・教授 藤澤 正人  
演題「産科婦人科学分野の現状と今後」  
講師 産科婦人科学分野・教授 山田 秀人  
講師 産科婦人科学分野・特命教授 山崎 峰夫

■ 講演

15:20～16:00(神緑会館多目的ホール)

- 座長：精神医学分野・教授 前田 潔  
演題「神経内科学分野の現状と今後」  
講師 神経内科学・分子脳科学分野・教授 戸田 達史  
講師 神経内科学分野・特命教授 荻田 典生

■ 講演

16:00～16:50(神緑会館多目的ホール)

- 座長：循環器内科学分野・教授 平田 健一  
演題「総合内科の現状と今後」  
講師 総合内科学分野・教授 秋田 穂束  
講師 地域ネットワーク学分野・特命教授 味木 徹夫  
講師 " " 特命教授 久津見 弘

■ 記念集合写真

16:50～17:00(神緑会館前)

■ 懇親会(参加費:無料 神緑会と医学科の支援により)

17:00～18:30(神緑会館)



神緑会館前にて

# 平成21年度学生海外派遣報告

## 医学科6年生 宮崎裕貴子

私は海外派遣プログラムの一環として4月4日から5月2日までハワイ大学の  
実習プログラムに参加させて頂きました。その内容は非常に濃いもので、学んだ  
ことは語りつくせないほどです。大まかなスケジュールとしましては  
1日目～3日目：身体診察と病歴聴取練習（SPさんと共に）  
4日目～21日目：Kuakini病院にてクリニカルクラークシップ  
22日目～29日目：Dr. Tokeshiの元でfamily practice実習  
となっておりました。また週1回、言語学者Dr. Littleによるプレゼンテーション  
レクチャーもありました。

初めの身体診察・病歴聴取の実習ではビデオで頭から足先に至るまでの診察の仕方を自己学習した後、模擬患者さんをお呼びして実技試験を受けました。この試験の様子は教員が別室でカメラでモニターしており点数をつける、というスタイルでした。この採点は医師ではなく、医学部の教育専門スタッフの方がされていたことが印象的でした。

4日目からのKuakini病院での実習では、2年目のレジデント、1年目のレジデント（インターン）、医学部3年生からなるチームの1つに加えて頂き、4日に1度のon callを含めチームケアの実習を行いました。2週目からは朝、担当患者さんを診察して、カルテを書き、レジデントに添削をしてもらうということを続けました。

特にAssesment&Planを考える際に、自分の知識が無いために全くplanが思いつかないことも多かったです。

4週目のfamily practiceの実習では、開業医とハワイ大学の老年医学の教授をしていらっしゃるDr. Tokeshiのもとで“Sleeping and eating are optional.”と言われるハードな実習をすることが出来ました。朝、3時半から老人ホームとKuakini病院にいらっしゃるDr. Tokeshiの患者さんの回診とカルテ書きを始め、6時半までに終わらせて先生と回診を行いました。9時からは先生のオフィスで問診や診察を行い、18時くらいから先生と夜の回診を行いました。患者さんは10人程担当できたので、実習の終わりには身体診察やカルテ記載に慣れることができました。

この実習で特に印象に残っているのは、学生がチーム医療で占める役割の大きさです。アメリカでは医学部に入学する前にすでに大学を卒業していることや、医学部での教育などの違いはありますが、日本の5年生に相当する学生がすでに担当患者さんの診察、カルテ書き、検査や投薬のオーダー、退院指示に至るまでレジデントのチェックを受けながらほとんど1人でやってしまうことに驚きました。患者さんの治療を進めるためにも勉強しなければならない環境が出来ているのだと感じました。同時に患者さんの治療をしていくのだという自覚がなく、まだ学生だからとどこかで甘えていた自分に気づき反省しました。

6年生の早いうちにこのような貴重な体験をする機会を与えられ、たくさんの方々に支えられて無事実習を終えられましたことに感謝しつつ、一層精進して参りたいと思います。

最後になりますが、このような充実した海外派遣にご支援をいただいた神緑会に感謝します。



Dr. Tokeshi(沖縄出身、ハワイ大卒で開業)と宮崎さん(右)と台湾からの留学生

Dr. Little(言語学者として医学英語の指導に当たる)宅にて宮崎さん他



## 2009年度大倉山祭に ご協力・ご寄付ありがとうございました。

2009年度大倉山祭実行委員長 細川 友誠（医学部4年生）

（大倉山祭2009 本祭 11月1日 @大倉山公園および神戸大学医学部キャンパス）

本年度の大倉山祭は、地域活性化をうたった宮崎県東国原知事の言葉を参考にした『どないかせなあかん』をテーマとし、地域高齢者医療の現状や未来について医学部の視点から向き合い、さまざまな取り組みのもと、地域の皆様とのつながりを深め合う機会としていくことを目標としました。天候が心配される中、ステージ企画では各部活動が、それぞれの威信をかけ戦い、医学発表のブース「イキキ脳を作ろう」においては、参加型の脳年齢テストや脳活性化のための運動方法などを展示し、地域の多くの方々に足を運んでいただきました。また、今年度より神緑会の先生方にもブースを設けてもらい、学生への相談や質問に答えていただくという試みもしていただきました。正午前より、7年ぶりの悪天候に見舞われ、音楽ステージは、体育館でおこなわれました。軽音楽部、クラシック愛好会の演奏によって、みなさまと楽しい時間を共有することができました。本祭を通して、私たちは、仲間と協力し合い、ひとつの目標にむかって努力し、達成する喜びを感じることが出来ました。この経験は生涯を通して大きな財産となると思います。この経験を活かし、将来を担う医療人としてさらに成長していきたい次第であります。

（大倉山祭 医療シンポジウム 11月3日）

本祭の2日後に開催されました医療シンポジウムでは、地域医療の根幹にある「超高齢社会の医療」をテーマといたしました。講演会では、本学大学院医学研究科総合内科教授である横野浩一先生と、京都大学医学研究科臨床創成医学教授である横出正之先生をお招きしました。横野先生には、「超高齢社会における生活習慣病を考える」、また横出先生には、「健康な血管で元気な明日をつくるために」という、テーマで講演していただきました。当日は、医学科の学生、医療従事者の参加だけでなく、地域の方々にも多く足を運んでいただき、講演会・講演者への質疑応答は活気のあるものとなりました。今回、一般の方々及び医療関係者が、超高齢社会の医療についての知識を得ることが出来、大変素晴らしいシンポジウムになったと思っております。

最後になりましたが、今年度の大倉山祭本祭ならびに医療シンポジウムが無事開催できましたのも、大変多くの方々のご協力によるものであります。とくに神緑会の先生皆様方には、たくさんのご寄付をはじめ、当日も足を運んでいただくなど、ご尽力を頂きました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



実行委員会メンバー

## ～ヨット部西医体優勝に寄せて～

### OB会会長 石田文夫 47年卒

先日はヨット部の西医体優勝祝賀会に前田盛神緑会理事長に出席していただきお礼申し上げます。

さて、ヨットは風がないと走りませんが、風が強すぎると大変ハードなものになります。人間だけでなく自然との戦いや調和が要求されるスポーツです。カーレースと同じように決められた条件の中で、新しい装備や入念な整備で艇を準備し、訓練された者が操艇しないと勝てません。レースでは艇が接触しそうになった時に、権利のない艇が必ず相手に航路を譲らなければならないルールがあり、それを利用して戦術が立てられ、レースが展開します。風のフレ、相手の走らせ方などからスタートやコースを考えた『技術+戦術』がヨットレースの魅力です。

今年で61回を数える西医体で、我々のヨット部は、21, 22回と45, 46, 47回に連覇を勝ち取りました。更に平成10年から本年までの12年間では、優勝6回、準優勝2回、3位3回の好成績をおさめています。優勝回数11回は西医体参加校ではトップの成績です。昨年、今年と部員数が減少気味ながら2連覇中で現役部員は来年の西医体を目指して練習に励んでいます。我々のクラブも創部の頃はそれこそなにもないところからの出発でした。阪大ヨット部で活躍された若森一雄先生が、昭和31年に神戸医科大学に修士入学され、同じく阪大ヨット部OBの馬淵生化学教授の肝いりで部員を募り、阪大から借りたヨットで練習をスタートさせたそうです。平成10年に新西宮ヨットハーバーに神大全学ヨット部とは別に医学部独自の艇庫を持つことができたのが、今日連続して好成績をおさめるきっかけになりました。この艇庫建造のため、故土井収二先生（42年卒）が中心となりOB会が結成され、初代会長に若森先生が就任されました。OB達が協力し、平成9, 10, 11年の3年間で848万円のOB会費と寄付が集まりました。艇庫の契約に際しては、当時の神緑会会長の菱田先生や部長の斉藤教授に大変お骨折りいただきました。現在、この艇庫の維持に年間180万円が必要で、これをOB会費と寄付でまかなっています。

最後にこの紙面をお借りして歴代の部長先生にお礼申し上げます。初代部長は、故馬淵秀夫教授（生化学）、その後、故麻田栄教授（第2外科）、杉山武敏教授（第2病理）、斉藤洋一教授（第1外科）、黒田嘉和教授（第1外科）にご指導していただきました。本年4月から、ヨット部OBの松井利充准教授（血液内科）にお世話いただいております。



## 第61回 西日本医科学生 総合体育大会成績



今年の西医体は、冬季大会は富山大学医学部の主管で3月に、夏季大会は琉球大学医学部を代表主管校として、九州・山口ブロックが主管となって9月に開催されました。今年は新型インフルエンザ、台風上陸、熱中症などトラブルに見舞われた大会だったようです、そうした中で、**女子ソフトテニス部、ヨット部、女子柔道個人戦（宮崎はる香さん）が優勝、ラグビー部が準優勝**と好成績を収めました。総合成績では全44校中、27位の成績でしたが、学生も来年に向けて、すでに練習に励んでおります。OBの先生がたの御指導、御支援が今後の成績につながっていくと信じておりますので、どうか暖かい御支援をよろしくお願いいたします。

### 各クラブの成績

男子テニス部	初戦敗退	男子卓球部	初戦敗退
女子テニス部	ベスト8	女子卓球部	2回戦敗退
男子ソフトテニス部	初戦敗退	ヨット部	<b>優勝</b>
女子ソフトテニス部	<b>優勝</b>	水泳部	入賞圏外
サッカー部	初戦敗退	合気道部	入賞圏外
準硬式野球部	ベスト16	空手道部	入賞圏外
男子バスケットボール部	初戦敗退	男子剣道部	リーグ戦敗退
女子バスケットボール部	2回戦敗退	女子剣道部	リーグ戦敗退
男子バレーボール部	初戦敗退	ハンドボール部	リーグ戦敗退
女子バレーボール部	初戦敗退	ラグビー部	<b>準優勝</b>
男子バドミントン部	初戦敗退	ゴルフ部	入賞圏外
女子バドミントン部	初戦敗退	男子スキー部	総合 入賞圏外
男子柔道部 団体戦	リーグ戦敗退	女子スキー部	総合 4位
女子柔道部 個人戦	<b>優勝</b>		



## 医学部クラブ紹介

こんにちは、神戸大学医学部ラグビー部です。神戸大学医学部ラグビー部はただ今、部員28名、マネージャー7名で楽しく、夏にある西日本医科学生総合体育大会、いわゆる「西医体」優勝を目指して活動しています。ラグビー部といってもほとんどの者が大学からラグビーを始め、高校時代は野球、サッカー、バスケット、テニス、陸上、柔道、剣道、卓球、帰宅、オタク・・・などなど出身は様々ですが、試合に出る15人それぞれが持つ個性を活かして、チーム一丸となり勝利に貢献しています。

クラブ活動は火・木・土曜日に練習を行い、夏の西医体をはじめ、春の関西医歯薬大会、秋には関西大学ラグビーリーグ（D4所属）などたくさんの試合に参加させていただいております。平成21年秋のリーグ戦で、D4で優勝し、滋賀大学との入れ替え戦を制して、初のCリーグに昇格しました。医学部のチームが単独で制するのは稀なことです。同様に、この5年間の西医体の戦績は、05年 準優勝、06年 3位 07年 3位、08年 優勝、09年 準優勝となっており、常に西医体の優勝争いに絡むことのできる常勝チームとして活躍しています。

## ラグビー部

そんなラグビー部の最大の魅力はチーム内の結束力であり、学年の枠を超えてとても皆の仲が良いことです。冬から春にかけてのオフの期間では、毎年クラブ旅行で様々なところへ行き、昨年度は優勝旅行として、OBの先生方のご尽力もあり、1週間オーストラリアへ行かせていただきました。

神戸大学医学部ラグビー部は、創部60年を越える歴史ある由緒正しきチームです。今まで200名を越えるOBの先生が卒業なされ、その御支援の下活動させていただいており、部員一同心より感謝している所存でございます。これからも御支援、御協力のほど宜しくお願いいたします。

(ラグビー部 主務 高橋 良輔 (5年次)  
置村健二郎 (3年次))

西医体20年度優勝後  
のオーストラリア旅行



# ESS



ESSではまず4月の新歓食事会から、8月にある夏ジェマ（神戸大学が発足させた大会：48年卒大井静雄氏他、50年卒八杉誠氏の連続優勝は語りぐさになっています。）という大会に向けてスピーチ、ディベートと競技に分かれ、日々練習に励んでいます。ESSにとって一番大きな行事である夏ジェマを終えたら、11月のフレッシュマンディベートというディベートの大会、今年から始まる1月のNYSEというスピーチの大会に向けて部員一同頑張っています。この競技には関係なく、週3回のプラとネイティブの先生によるプラを行っています。部員の数が多いので、いろんな先輩後輩との接点が多く、和気藹々とした部活動を行っています。（ESS部長 住本 恵子 医学部3年次）

## 編集後記



今年、初めてのニュースレターです。早いもので、今回で4回目の発行となりますが、徐々に医学生の記事も増やすことができおり、幅広い層に読んでもらえる内容になってきたかと自負しております。編集委員も増えてきており、更に多彩な情報を提供できる媒体になっていければと考えております。

このニュースレターは神緑会員相互の情報提供、情報交換の場と考えております。些細なことでも結構ですので、他の会員の皆さんに提供したい情報、お知らせ等ございましたら神緑会ニュースレター編集部（E-mail [shinryoku@med.kobe-u.ac.jp](mailto:shinryoku@med.kobe-u.ac.jp)）までご連絡ください。また、当ニュースレターに対するご意見、ご要望などもご連絡いただけるよう併せてお願い申し上げます。

### 編集委員：

久野克也	昭和48年卒
三浦靖史	平成元年卒
吉田 優	平成4年卒
小林和幸	平成9年卒
篠原正和	平成10年卒